

【質問】本県では成人T細胞白血病という病気が多く、母乳を介して母親から子どもに感染すると聞きました。どのような病気が教えてください。

(28歳・主婦)

成人T細胞白血病

【回答】成人T細胞白血病(ATL)は、悪性リン

パ腫や白血病と同じ血液の悪性疾患です。大きく異なるのは、ATLがHTLV-1というウイルスによつて引き起こされる点です。

日本ではHTLV-1のキャリア(発症していないが、ウイルスを体内に持っている人)は約100万人おり、年間700人が発症しているといわれています。



感染しても発症する危険はほとんどありません。現在、輸血用血液は全例、HTLV

1987年から、全国に先駆けて独自の感染予防に取り組み、成果を挙げたのが本県です。対策の柱は①妊婦のウイルス抗体検査を行い、キャリア妊婦を発見②キャリアの母親に、母乳を与えず粉ミルクで子どもを育てることを奨励③感染

ウイルスが原因で発症

す。HTLV-1は主に母乳を通じて感染し、乳幼児のころ感染した人が40〜50年の潜伏期間を経てATLを発症します。

生涯を通しての発症率は3〜5%です。血液や、まれに精液を介しても感染しますが、成人になってからなことは証明されています。

V-1抗体検査をしているので、輸血による感染の危険はありません。

発症したATLの治療成績は芳しくなく、治療法も確立されているとは言えません。しかし、母乳の禁止が感染防止に何よりも効果的なことは証明されています。

母乳制限で感染防止

母乳を与えず粉ミルクだけで育てると2・4%に減らせることも分かりました。

この取り組みを続けると、21世紀後半には本県からATLが駆逐されること予想されています。

従来、HTLV-1キャリアは九州地方に多かったため、厚生労働省はATLを風土病と位置づけ、対策を地方に委ねてきました。

その結果、抗体検査の全額公費負担は数県にとどまっています。しかし近年、キャリアが首都圏に拡大していることが明らかになっています。国を挙げて、抗体検査の公費負担を実施し、感染防止対策の周知や治療法の開発に取り組むべき時期が来ています。(県医師会)